資料３

# 「防災とボランティアのつどい」実施報告

平成 30 年 7 月豪雨では、これまでのべ 23 万人を超えるボランティアが様々な被災者支援分野において活動をされ、質量ともに充実したボランティア活動が展開されました。災害が多発、激甚化する中、被災者支援を効果的・円滑に実施するため、行政、社会福祉協議会、NPO・ボランティア団体、企業をはじめとして、災害時の被災者支援活動に関わる多様な主体の連携体制を構築・強化することが、ますます求められています。

本年度の「防災とボランティアのつどい」は、多様な支援関係者が交流・意見交換を行うことにより、平時における顔の見える関係を構築し、発災時の効果的な連携に備えるとともに、平成 30 年 7 月豪雨の際の愛媛県でのボランティアに関する取組を広く全国へ発信するための機会とすることを目的として開催をいたしました。本会には、愛媛県内外から、約 260 名のご来場を頂きました。

- 開催日時・場所
  日時：平成 31 年 1 月 27 日（日）13:00～17:00
  場所：ひめぎんホール（愛媛県県民文化会館）　愛媛県松山市道後町 2 丁目 5 番 1 号
- 主催：内閣府・防災推進国民会議
  共催：愛媛県
  協力：日本防災士会・特定非営利活動法人えひめリソースセンター

## Ⅰ. 開会挨拶

内閣府特命担当大臣（防災）　山本順三

2018 年の全国各地での大きな災害をふまえ、災害と共存していく覚悟が必要であり、行政・NPO・ボランティア等の連携や、防災意識社会の構築が必要であると述べられました。そのためには、関係各者が平時から顔の見える関係を築いていくことが大切であると述べられました。

愛媛県知事　中村時広

行政の対応において、被災地域の状況を的確に把握し、情報発信をすることの重要性とともに、地域の防災力の基盤として、防災士の資格取得に向けた積極的な県独自の取組を紹介されました。また、「防災・被災者支援の担い手」として NPO・ボランティアには重要な役割と意義があり、ボランティアそれぞれの持ち味を活かすための受け皿づくりや、これらをネットワーク化していくことが重要であることを示されました。

## Ⅱ．全国セッション
## 「防災における行政・NPO・ボランティアの三者連携のフロンティア」

モデレータ：全国災害ボランティア支援団体ネットワーク　JVOAD　代表理事　栗田暢之
＜報告者＞
内閣府政策統括官（防災担当）付　参事官（普及啓発・連携担当）　佐谷説子
全国社会福祉協議会 地域福祉部長 高橋　良太
＜パネリスト＞
愛媛県保健福祉部社会福祉医療局保健福祉課長　馬越祐希
岡山 NPO センター　災害支援担当　詩叶純子
岐阜県健康福祉部地域福祉課　福祉人材対策監　田口博史
くまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）　代表　樋口務

本セッションでは、初めに、モデレータ（JVOAD）と内閣府及び全国社会福祉協議会から、東日本大震災以降の三者連携の経緯、現在の三者連携の状況、今後の課題を概括し、その後、熊本地震や西日本豪雨等の近年の災害から何を学び、どのような課題を抱えたのか、それらの課題に対してどのような取組が行われ、また今後、どのようにその取組を継続していこうと考えているかについて、「連携」という観点を中心に、報告をしました。

愛媛県保健福祉課の馬越氏からは、災害時において実践された三者による支援情報・共有会議の取組や、今後にむけて、被災地以外の自治体への体制づくりを展開していくことが紹介されました。岡山 NPO センターの詩叶氏からは、平時からの協働事業が緊急時の協働につながることが指摘されました。岐阜県地域福祉課の田口氏からは、県域における災害ボランティア連絡調整会議の設置に向けた体制構築やマニュアルの策定の取組について紹介いただきました。また、熊本地震後に発足した KVOAD 代表の樋口氏からは、2016 年 4 月の発災以降今も続く連携会議での情報共有の内容をデータベースで整理している事業が紹介されました。

それぞれの立場からの発表を踏まえ、パネリスト全員で三者連携のあるべき姿について議論し、それぞれの地域性を考慮しながらの全国、都道府県、市町村での情報共有会議のバージョンアップの必要性、そうした情報共有会議の下で支援のモレ、ムラをなくしていくこと、平時からの顔の見える関係の構築の大切さなどが結論として共有されました。

栗田暢之　氏

佐谷説子　氏

高橋良太　氏

馬越祐希　氏

詩叶純子　氏

田口博史　氏

樋口　務　氏

## Ⅲ．基調講演

「被災者支援と多職種連携－災害復興法学と「知識の備え」の防災教育－」
銀座パートナーズ法律事務所　弁護士・博士（法学）　岡本　正

住まいや職場を失い今後どう暮らしていけばよいのかわからない、お金がなく住宅ローンなどの支払いができないといった悩みの声を、弁護士の立場から「法律」や「制度」を丁寧に解説し、「防災の知識・常識」としてこれらを知り、学ぶための知識の備えの大切さについて呼びかけました。

生活再建の備えとしての新しい防災教育を千、文士業と産官学、NPO で一緒に行っていくことの重要性を訴えました。

岡本　正　氏

## Ⅳ．愛媛セッション

### 愛媛県における「防災とボランティア」

モデレータ：NPO 法人えひめリソースセンター　南予担当理事　木村謙児
＜発表登壇者＞
U.grandma（うわじまグランマ）　代表　松島陽子
NPO 法人シルミルのむら　副理事長　山口聡子
JA えひめ南　吉田営農センター　清家嗣雄
NPO 法人自立生活センター松山（ゆめ風ネットまつやま）　須賀智哉
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク　JVOAD　事務局長　明城徹也
内閣府政策統括官（防災担当）付　企画官（普及啓発・連携担当）　石垣和子

西日本豪雨災害で被災者支援に関わった愛媛県内の NPO 等を代表して 5 団体からの活動報告を踏まえ、被災地支援のありかたをパネルディスカッション方式で議論し、連携の意義や外部からの支援との連携に係る課題などを話し合いました。

うわじまグランマの松島氏からは、災害前から顔が見える関係があったことが、災害後立ち上げた NPO の活動が円滑に進み、行政や社協と連携して今後の課題解決を担う中間支援組織立ち上げのための準備会へと発展したことが報告されました。また、元々地域資源を生かした活動を行っていたシルミルのむらの山口氏は、外部からの支援の受け皿となって、SNS を活用したボランティアのマッチングや支援のコーディネートを行い、地域で何が起こっているのかを把握するために圏域での情報共有会議開催を実現したことが紹介されました。えひめ南公共吉田営農センターの清家氏からは、みかん農家への支援を外部との連携で行ったことを踏まえ、今後防災ボランティアに精通した人材の育成、東南海地震に備えた近隣県との連携強化、企業ボランティア活動への期待などの取組の重要性を指摘されました。自立生活センター松山の須賀氏は、外部からの支援を受けながら活動してきたことを踏まえ、自身も障がい者であり、ゆえに障がい当事者は助けられる存在ではなく、障がい者だからこそ気づける支援の在り方があることを指摘しました。

被災地で活動してきた NPO からの報告を受け、本当に効果的な被災者支援につなげるには、それぞれの地域の特性に合った連携の組み合わせ方や役割分担の在り方があること、復興期の三者連携がその後の次の災害に備えたネットワークにつながることなど、災害時の役割や機能を議論することで地域の力が備わっていくことも指摘されました。

最後に、継続した活動によって、顔が見える関係が構築され、地域の困りごとが把握でき、支援のヌケやモレがないような連携を今後も続けていく方向性が共有されました。

木村謙児　氏

松島陽子　氏

山口聡子　氏

清家嗣雄　氏

須賀智哉　氏

明城徹也　氏

石垣和子　氏

## Ⅴ．閉会挨拶

内閣府大臣官房審議官（防災担当）　米澤　健

1995 年の阪神・淡路大震災以降、各地の災害での被災経験を踏まえながらボランティアや支援の仕組みが構築されてきた経緯を改めて振り返ると同時に、本会での議論の総括を踏まえ、行政・社会福祉協議会（ボランティアセンター）、NPO 等の三者が、平時からの信頼関係を構築していくことが重要である旨を再確認しました。

## Ⅵ. 連携・協働ネットワーキング・団体間マッチング

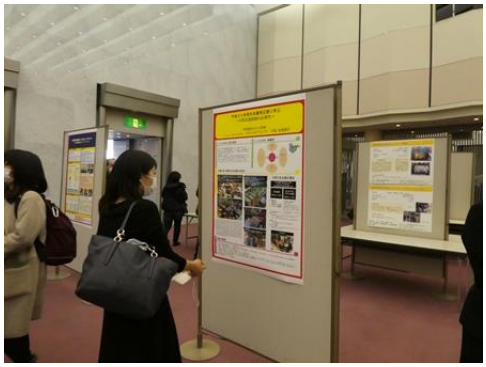
愛媛で災害支援に関わったNPO等33団体のポスターパネル展示を行い、情報・意見交換と相互交流を行いました。

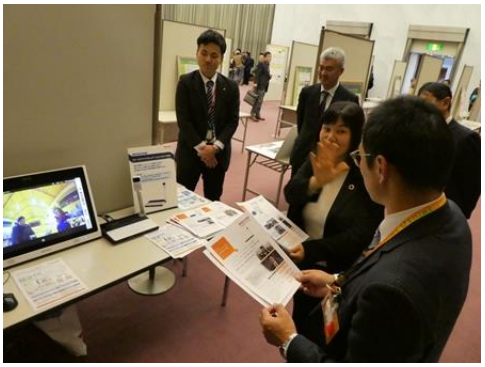
（登壇発表団体）
NPO法人 えひめリソースセンター
うわじまグランマ（宇和島市）
NPO法人 シルミルのむら（西予市）
NPO法人 自立生活センター松山・ゆめ風ネットまつやま（松山市）
JAえひめ南　吉田営農センター

（愛媛県県民環境部県民生活男女参画・県民協働課　「あったか愛媛NPO応援基金」団体）
NPO法人 アジアキッズケア
NPO法人 eワーク愛媛
NPO法人 えひめ消費者ネット
NPO法人 Kodomo Saijo
NPO法人 NEXT CONEXION
NPO法人 働く人とその家族サポートセンター
NPO法人 福祉の店コットン
NPO法人 八幡浜元気プロジェクト
NPO法人 えひめ子どもチャレンジ支援機構
NPO法人 愛媛県不動産コンサルティング協会
NPO法人 和田重次郎顕彰会
NPO法人 えひめ心のつばさ（翼学園）

（えひめリソースセンター「支援活動情報共有会議」出席団体）
まつやまNPOサポートセンター
RICOH情報共有システム（テレビWEB会議システム）
NPO法人 えひめグローバルネットワーク
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）
NPO法人 えひめ311
えひめイヌネコの会
生活協同組合コープえひめ
美容師大学・3世代シェアサロンめばえ
Act For Nanyo Kids（なんよきっず）

公益財団法人プランインターナショナルジャパン
NPO 法人 子育てネットワークえひめ
災害ボランティア活動支援プロジェクト会議
NPO 法人 e ワーク愛媛
NPO 法人 ジャパンプラットフォーム
松山北高校まちづくり Working Team
愛媛県宇和島市立吉田中学校





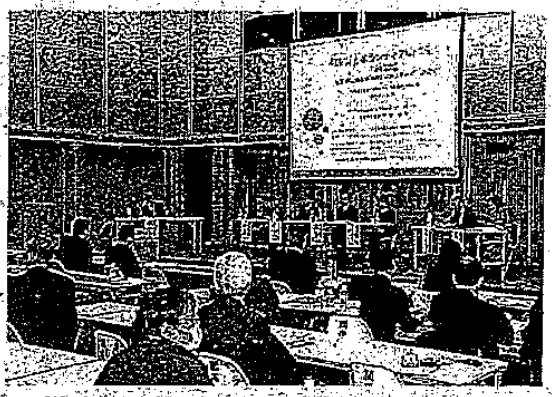
（報道について）
新聞社 2 紙（朝日新聞・愛媛新聞）、テレビ 3 社（NHK、愛媛 CATV、南海放送）による取材をいただき、各メディアで大きく報道されました。

愛媛新聞　平成 31 年 1 月 28 日

## 行政・社協・ＮＰＯ 災害時連携へ

# 顔見える関係 平時から

## 松山でつどい 260人参加



災害時の行政や社会福祉協議会、ＮＰＯ団体などの連携を話し合った会合
＝27日午後、松山市道後町２丁目

災害時の行政、社会福祉協議会、ＮＰＯ団体などの3者連携について意見を交わす「防災とボランティアのつどい in 愛媛」（内閣府主催）が27日、松山市道後町2丁目のひめぎんホールであった。県内外のボランティアや行政職員ら約260人が、平時から顔の見える関係をつくる重要性などを確認し合った。

（11面に関連記事）

つどいは阪神大震災発生日の1月17日ごろに毎年開催し、24回目。山本順三防災担当相（参院愛媛選挙区）や中村時広知事、県内市長らも参加し、全国での3者の協力状況や、西日本豪雨時の対応などを話し合った。

県内の状況について、宇和島市や西予市野村地域で活動するボランティア団体の関係者らが報告。ＮＰＯ団体「うわじまグランマ」（宇和島市）の松島陽子代表は、ＮＰＯ団体などの活動をサポートする中間支援組織設立に向けて25日に市内で準備会を設立したと述べた。他の登壇者も「個人で被災者と支援したい人のマッチングをした」「産業復興のボランティアも重要だと痛感した」などと語り、被災地のニーズや対応状況の共有が大切などと呼び掛けた。

内閣府の担当者らは阪神大震災を機に災害ボランティアが広まり、２０１６年の熊本地震で3者連携による情報共有会議が有効に機能したなどと経緯を解説。

愛媛県保健福祉課の馬越祐希課長は、被災前の県内は3者連携が十分でなかったと振り返った。現在は県や自治体の単位で情報共有会議が開かれており、「今回の災害で顔の見える関係ができた。外部支援はいつまでも続かないので、いかに地元で3者連携体制を作っていくかが課題」とした。

被災地で活動する民間団体の紹介コーナーや災害復興に関する弁護士の基調講演もあった。（竹下世成）

# 愛媛 NEWS WEB

## 災害に備え連携や態勢づくりは

01月27日　19時23分

去年の西日本豪雨でボランティア活動に関わった人たちなどが、２７日、松山市で、活動の方法や改善点を話し合い、参加者からは、常日ごろからの情報共有や、南海トラフ地震を見据えた連携態勢づくりが重要だといった意見が出されていました。

松山市で開かれた防災に関する集会にはおよそ２６０人が参加しました。集会では、行政とＮＰＯ、ボランティアが、どのように連携する必要があるかというテーマでパネルディスカッションが行われ行政の担当者や、西日本豪雨でボランティア活動に関わった人などが意見を交わしました。この中で、参加者からは、「連携のためには、災害時だけでなく、平時からの情報共有が必要だ」という意見が出ていました。また、愛媛県の担当者は、西日本豪雨の際の課題として、「支援を受け入れた経験がなく、態勢の構築に苦労したため、南海トラフ地震を見据えた連携態勢づくりが必要だ」と話していました。西日本豪雨でみずからが被災したという宇和島市の高校３年生の男子生徒は、「西日本豪雨の際は、リアルタイムの情報がほとんど届かなかったので、ＮＰＯなどが連携して、対応してくことは重要だと感じました」と話していました。

**以上**

資料３　参考資料１

# 防災とボランティアのつどい in　愛媛

# アンケート 結果

内閣府（防災担当）

I.　回収状況

配布数：201 部

回収数：114 部（56.7%）

有効回答数：114 部（100%）

II.　回答（１）講演等について

■行政・ボランティア・NPO 等からなる連携体の必要性

| 必要性を感じない①-②-③-④-⑤必要性を感じる | 人数 | 割合 | |
|---|---|---|---|
| 回答⑤ | 89 | 78% | 93% |
| 回答④ | 17 | 15% | |
| 回答③ | 6 | 5% | 5% |
| 回答② | 0 | 0% | 0% |
| 回答① | 0 | 0% | |
| 無回答 | 2 | 2% | 2% |
| **総計（n）** | **114** | **100%** | **100%** |

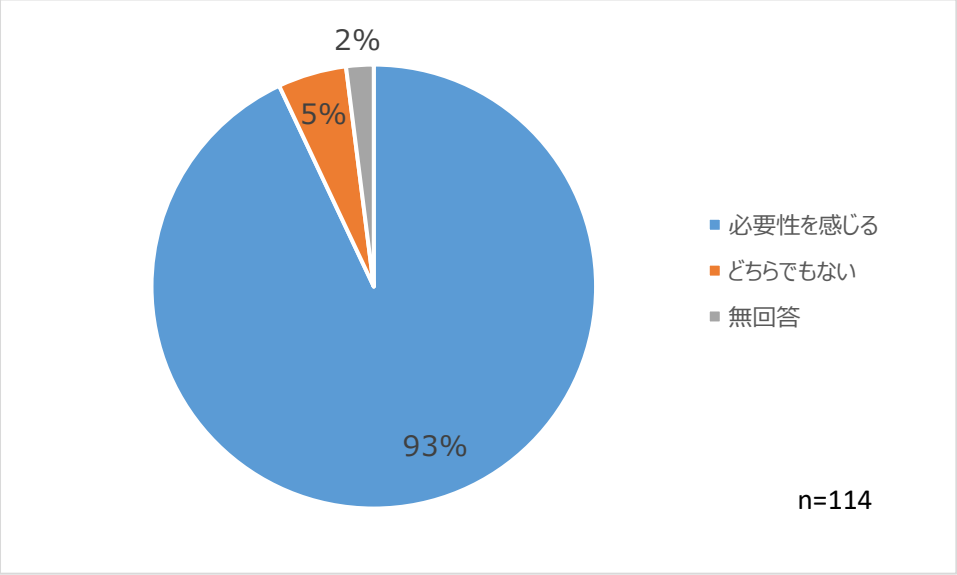
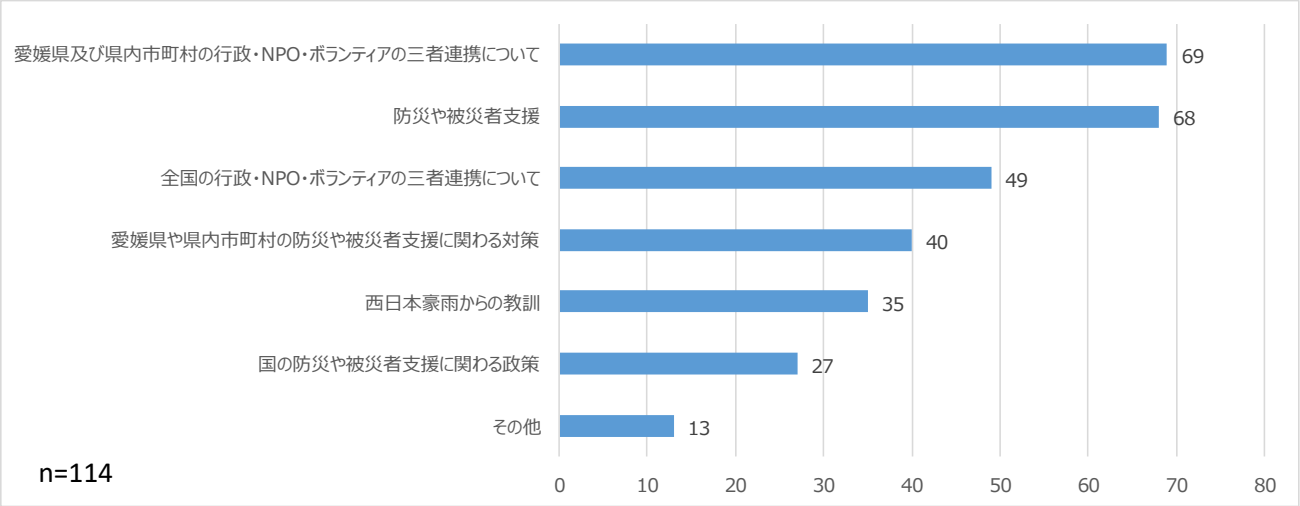



図１　連携体の必要性

■イベントを通じて学びたかったこと（複数回答可）

| 選択肢 | 回答数 | 割合 |
|---|---|---|
| 愛媛県及び県内市町村の行政・NPO・ボランティアの三者連携について | 69 | 61% |
| 防災や被災者支援 | 68 | 60% |
| 全国の行政・NPO・ボランティアの三者連携について | 49 | 43% |
| 愛媛県や県内市町村の防災や被災者支援に関わる対策 | 40 | 35% |
| 西日本豪雨からの教訓 | 35 | 31% |
| 国の防災や被災者支援に関わる政策 | 27 | 24% |
| その他 | 13 | 10% |
| **総計（n）** | **114** | **-** |

図２　イベントで学びたかったこと




その他（13）の詳細

| |
|---|
| 支援を受けた側の三者連携への評価。 |
| 災害時のボランティア（NPO）と連携。 |
| 被災者の生活再建に向け、いろいろな団体が連携しながら活動している事。人、もの、資金、情報の大切さ。 |
| 発災当初から有志とともに又は個人で様々な活動を支援した。今後も復興まで続けるとともに NPO として県内で動くため知識を得たかった。 |
| 西日本豪雨災害被災地の現状を知りたかった。 |
| 防災ボランティアというキーワードで何となく参加した。 |
| 障碍者、障碍児、高齢者、病気の人、妊娠、子供等、災害時から配慮が必要と思われる方々への支援を少しでも勉強したい。 |

| |
|---|
| 松山市宮西など人のつながりがなく、孤独死していても関係ないような時代であり、雰囲気が冷たすぎる。地域、近所等のつながりが全くない。公費でボランティアの実勢がある人は、防災士の資格を取らせたら、価値的・価値創造ではないだろうか？価値的・価値創造が大事。 |
| 自助に関する学習も必要ではないでしょうか。 |
| 実践的な研修機会等にかかる情報。 |
| 企業として何ができるか。 |
| 災害時の法的支援の現場の話（岡本正先生） |
| 法的分野の防災・減災に関係する支援や地域との介入方法。 |

■イベント内容を踏まえ、あなたの所属先で今後取り組みたいこと（自由記述）

| 連携・情報共有 |
|---|
| 地域ボランティア・NPO 等との相互の情報共有。 |
| いろいろな支援団体や NPO などとのつながり。 |
| NPO 法人の団体として、行政、社協との顔が見える地固めしていきたいと思う。特に被災した際の子供たちのできることについて。 |
| 三者連携に民間企業がどのように支援できるかを考えていきたい。 |
| 日常的なつながりの仕組み（システム） |
| 地域防災計画の見直し。平時から三者連携の体制づくり。 |
| 地域との連携。 |
| 行政や色々な団体との連携を図り、現場の声を通しやすい環境をつくっていきたいと思います。 |
| 顔の見える関係は築けているが「体制」として形になっていないので組織化したい。 |
| 情報共有会議、ネットワークの継続、構築の必要性。内部においても横のつながり・連携が必要。 |
| 行政や社協、事業主が個々に活動している現状なので、ぜひ話し合いの場を設けて、お互いを知ることから始めたい。 |
| 行政と社協の連携、避難誘導から避難所運営のすべての防災に関する事を協議し、平時から備えておきたいと思います。 |
| 現在、所属先があるわけではないですが、災害が少ない香川県でいざ災害が起こった際に、初動、そして継続的に動くための知識を積極的に学習すること、そして、協力して動いてくれる仲間との連携を今から築いていくこと。出来ることから頑張っていきたいと思います。 |
| 中間支援組織のネットワーク。 |
| 行政と NPO・ボランティアをつなぐ中間支援組織の構築。 |
| 仮設住宅から自立支援に向けての連携強化。 |
| 関係部署との情報共有。 |
| 行政との「有効な」情報連携手段の構築（行政は FAX をデフォルトにしている）。 |
| 多様な主体が連携して、被災者を支援していく情報共有。 |
| 防災士会として、ネットワークを活かした情報の共有と迅速、確実な情報提供。 |

| |
|---|
| 情報の共有。どこでどういった NPO 法人が何をしているか。避難所運営にあたり、災害規模、全体感を俯瞰して何ができるか考えていきたい。 |
| 市での連携体制の検討。<br>災害ボランティア関係団体への情報提供。 |
| 防災教育 |
| 防災教育、全国規模の研修（防災関係）への参加。 |
| 防災教育、災害ボランティア募集、後方支援、募金取りまとめ。 |
| 全国の大学との協定。子供から高齢者までの切れ目のない防災教育。 |
| 1.防災（災害復興）教育の見直しと拡充<br>2.マンション（区分所有住宅）の BCP 検討と普及 |
| 災害時に必要な法律・制度の情報収集・共有。 |
| 災害復興法学と知識の備えの防災教育。 |
| 災害復興に関する基礎知識。 |
| その他 |
| 地域で行う防災事業 |
| ただ学ぶだけでなく、自分の地域に合った防災とボランティアのあり方について考えて伝えていきたい。 |
| 防災士養成研修の受講。<br>平時からの異業種交流による顔の見える関係づくり。<br>災害時にも動けるボランティア人材づくり。 |
| 情報まとめサイト「チアアップえひめ」として、今までの活動を精査し改善して、永久的な NPO 活動のスキルを発信するように洗練させ認識を高める。 |
| 災害時のネットワーク連携を考えるためにも、今困っているニーズを持った人にどう支援し、サービスを準備するかが大事。今しないと、いざという時頑張れないと思うから。よい勉強会でした。 |
| 今回被災地以外の市長が参加していない。意識の薄さを感じるため、市へ意識向上を呼びかけ、NPO 以外にもライオンズやロータリーJCI への呼びかけを行う。 |
| 1 人ずつ支援を詳しく知りたい。 |
| 今回災害（7 月豪雨）での現地連携状況の確認継続。<br>受援体制案精査への反映。 |
| 災害支援 |
| 地元でペット同伴避難の実現に向けて行政に協力をお願いしているが、なかなか難しく、本日の南予の団体のように協力者をつのり現実にして行きたいと思います。 |
| 平常時における NPO との協定の締結。<br>災害復興学の共有。 |
| 地域の人にいろいろな支援や方法があることを伝えたい。 |
| ドローンを使った防災協定。 |

| |
|---|
| 個人ボランティアでできること、できないことがある。個人のボランティア団体が知り合うつながる機会があるのだろうか？人の思いやりなどは地域差個人差などがあるのでは？人の思いやりがある個人・地域は価値的・価値創造ではないだろうか？同じ松山市でも、松山市宮西はつながりがない。価値的・価値創造だろうか？ |
| 特に自助を行い、後に共助に進みたいと思います。 |
| 受援力の向上。 |
| 専門士業連携による被災者支援（災害復興まちづくり支援）。 |

■研修の感想（自由記述）

| 評価コメント |
|---|
| 三者連携について平素からの取組の重要なことを感じた。事前に応援・受援等のマニュアルの策定等を行い連携・情報共有を図っていかなければと思いました。行政においては、このような取組を担当課のみでなく、全体で共有しておかないといけないと思いました。 |
| 行政・NPO・ボランティアの三者連携の必要性が強く感じられました。被災時のみならず、平時から顔が見える関係を作っておくことが特に重要だと思われます。ありがとうございました。 |
| 改めて人のつながりや連携の大切さを認識できました。今後も継続してほしいと思います。 |
| 今回の研修は様々な団体の活動を「知る」という意味では大変良かった。次のステップとして「内容を理解する」、さらに実行できるように「行動する」ということが大事ではないでしょうか。<br>今後大災害が起きた時にそなえておきたいと思います。 |
| 中間支援組織の重要性を改めて感じました。 |
| 様々な立場のみなさんのご経験を共有させていただき、学ぶことの多い有意義な時間を過ごすことができました。関係者のみなさま、ありがとうございました。 |
| 改めて、住民全体が自助、共助、公助について思い返すことが大変重要と思います。<br>ご協力のみなさんに感謝します。 |
| この種のイベントに参加させてもらって 2 年になるが、今日のイベントが最も有意義であった。中村知事をはじめ我が愛媛の優秀な県庁マンが企画に絡んだためか？また内閣府の石垣和子様には、行政と NPO 法人が補い合う関係だとコメントされたが、素晴らしいコメントではないか。国の担当者が防災に対して適確な認識を持たれている事は大変頼もしいです。皆さんありがとう。米澤様のあいさつも大変良かったです。 |
| グランマ、シルミルのむらなど、いろいろな方のお話が聞けてよかったです。ありがとうございました。 |
| 時間に追われるかのように濃密な質疑応答であり、プロファイルとして残していくことは今後の大切な情報源となり大いに参考になる。 |
| 各地での開催をもっと高頻度に行って頂きたい。もっと受講者に発言をする時間を取って頂きたい。 |
| 今から防災に関して動き始めようと思っていた所で参加できてとても良い経験になりました。ありがとうございました。 |
| 今後も各地回り方式で継続してもらいたい。 |

| |
|---|
| イベントでのやりとりだけでなく、配布資料についても今後活用させていただきたいと思います。ありがとうございました。内閣府や各自治体においては、防災・復興事業を対象としたインターンシップ等、教育機会の拡充についても検討していただけると幸いです。 |
| 開催を準備された皆様、ありがとうございました。とても有意義な集まりだったと思います。 |
| 大変貴重な時間をありがとうございました。自身の知識のなさで理解できにくい所があり、レベルに合った学びも必要だと感じましたが、自分にも出来ることから何か初めようと思いました。平時からの連携は必要だと改めて学びました。 |
| 本日は貴重な講演ありがとうございました。 |
| 乙亥会館に行って学びます。有難うございました。 |
| お世話になりました。 |
| ありがとうございました。 |
| 今後続けて欲しい。 |
| 半日なのに充実していた。 |
| 今後もこのようなイベントは必要だと思います。地域ネットワーク構築のためにも大事です。 |
| 改善コメント |
| 内容、情報の貴重さだけに一つ一つの設定時間が短く、もったいないと思いました。NPO だけでなく、個人のボランティアやボランティア団体にも、もう少し視点を置いて欲しかったです。 |
| 進行が早口で話す為、理解しにくい。 |
| 内容が早すぎて、1 つずつの話が理解しにくかった。 |
| 内容の割に時間が短い。詰込みすぎだ。 |
| もう少しゆっくり。 |
| セッションの話し方が少し早口で分かりにくかった。 |
| 開会のあいさつ等は短めにして欲しい。 |
| 基調講演をもう少し聴きたかった。愛媛での活動は宇和島、西予、大州が中心で他の地域の活動も聴きたい。支援が届いていないのはむしろそういった地域なので、その話も聴いて現状を知りたいと思った。 |
| ポイントを絞っていたらもっとよくわかったかも。<br>ボランティアのステージが今後の課題かも。（詳しい方、そうでない方） |
| もっと企業の取組を聞きたい。 |
| ボランティアに関わってない人でも解りやすい内容を開示してよいのでは？ |
| ネットワーキングのため、参加者名簿を配布して欲しかった。 |
| 若い世代の参加者が少ない。もっと告知をした方がよいと思います。 |

| その他 |
| --- |
| 松山市宮西などは、アパートマンション等々は人間のつながりなどが全くない。地域や心療内科などが、いざという時に一人暮らしの障がい者、高齢者などを守れるか？わりと普段も冷たいのに、個人ボランティアも少なく、いざという時災害があった時も冷たいのではないか？地域のつながりがないので、価値的・価値創造ではないのでは？ |

■各講演等の評価と理由について

①セッション１

| ①-②-③-④-⑤【⑤段階（⑤＝最高評価）】 | 人数 | 割合 | |
| --- | --- | --- | --- |
| 回答⑤ | 28 | 25% | 60% |
| 回答④ | 40 | 35% | |
| 回答③ | 35 | 31% | 31% |
| 回答② | 4 | 4% | 4% |
| 回答① | 1 | 1% | |
| 無回答 | 6 | 5% | 5% |
| **総計（n）** | **114** | **100%** | **100%** |

【ポジティブ】

| 三者連携 |
| --- |
| 三者連携のあり方について考えられた。 |
| 三者連携の必要性。 |
| 三者連携は必要。具体的で良かった。 |
| 三者連携が非常に重要になる。現場から出てくる要望に、いかに早く対応できるかが災害対応では重要と考える。 |
| 今後の生活再建、支援をいかに３者連携して支援していくのかが課題であると改めて感じた。 |
| 行政・NPO・社協等それぞれの立場の考えが拝謁できたこと、並びに具体的な課題解決方法（三者連携）を例示いただけた。 |
| 行政・NPO ボランティアの三者連携について参考になった。 |
| 三者連携について平時からの取組みが大切だと改めて思った。愛媛県は大規模災害の経験がなく、今災害が起こってから連携をとるのに苦労したと思う。 |
| 愛媛では災害に対してなれてない人が多く、今回の災害がすべて初めての経験となり、連携の大切さがわかった。この事は多くの人に伝えなければならない。 |
| 最新の三者連携についての知見を得ることが出来て良かったです。 |
| 三者連携の重要性がなんとなく分かった。 |
| 三者連携の仕組みの把握が自分自身理解しきれていないところがあります。 |
| 連携の大切さを理解できた。 |

| |
|---|
| 災害ボランティアに関わる行政と各団体の連携を力説頂いたことは、被災地に短期間に多くのボランティアを受入可能とするための必要不可欠な条件である |
| それぞれの立場の方のお話が参考になりました。大災害を経て、この様な連携ができていることが良くわかった。 |
| 内容は大変勉強になりました。平時のかかわりが災害時にも生きるという点は、確かにそうだなと改めて考えさせられました。ただ、早口でついていけませんでした。 |
| その他 |
| 他県の取組やニーズの経年変化など、ためになるお話を聞くことが出来、良かったです。 |
| 岡山の方の話しが参考になりました。 |
| 岡山の平時からの連携がうまく機能した話はよかった。<br>全体に話が早すぎて、考える間もなく、もったいない感があった。 |
| 災害時、平時において、実際に活動経験をもつ、民の方々の話を聞くことが出来たから。 |
| 中間支援の仕組みと実情について理解を深める契機となったため。 |
| 具体的な活動から課題が明確化された。 |
| 事例が豊富で課題が分かりやすかった。 |
| 図や画像をカラーで資料作成してもらい、分かりやすくてよい感じでした。 |
| コーディネートが的確で話の内容が入りやすかった。<br>自分の仕事内容に関わりがあるため、今後は様々な場所に顔を出したい。 |
| もう少しスローな話し方をして欲しい。内容は良かったです。 |
| 早口だったので聞き取りづらいところがあり、そこは残念だったが、とても参考になる内容だった。 |

【ネガティブ】

| |
|---|
| 「防災」より発災後の三者連携のあるべき姿がメインだった。平時の三者の関係について具体的なアクションが見えない、広域災害時に連携可能なのか？想定と訓練の必要性は？ |
| 多大な被害を受けた自治体での動きは見えるが、被害が少ない地域での動きが見えず残念だった。 |
| パネリスト同士の問答だけでなくもっと受講者からの意見や質疑を受ける時間を取る。 |
| 一部の発表者があまりに早口で内容が分かりにくい面があった。 |
| 話すスピードが早すぎる。 |
| 少し時間が短く、内容が早足だった。 |
| 三者連携の重要性はある程度理解できたが、時間的に少し駆け足であった。 |
| 話が早くてついていきにくかった。 |
| 皆さん早口で聞きとりにくかった。 |
| 全体的に早口で、内容の聞き取りが大変でした。概要だけでなく、具体的な実際の活動など、ゆっくり伺いたかったです。 |
| 早すぎてよく分からない事が多かった。 |
| 良いお話が早口すぎて理解が追いつかない。モデレータさんせかしすぎです。 |

| |
|---|
| 早口すぎて、理解しにくかった。 |
| 私には早口の説明で、聞きとり難いセッションでした。<br>説明項目を絞って課題をわかりやすくゆっくり話した方がよいと思いました。 |
| 早口で内容について行くのがやっと。理解、納得する暇がなかった。 |
| 早口だったため |
| 早口で解りづらかった。 |
| 早すぎる進行で、解りにくい。 |
| 進行（モデレータ）が駆け足強め（仕方なかったとは分かっています）。 |
| 業務への関係で途中参加になってしまい、評価できないため。 |
| 途中参加したため、少しわかりづらかった。 |
| 単純につまらない。 |

②基調講演

| ①-②-③-④-⑤【⑤段階（⑤＝最高評価）】 | 人数 | 割合 | |
|---|---|---|---|
| 回答⑤ | 41 | 36% | 74% |
| 回答④ | 43 | 38% | |
| 回答③ | 16 | 14% | 14% |
| 回答② | 8 | 7% | 7% |
| 回答① | 0 | 0% | |
| 無回答 | 6 | 5% | 5% |
| **総計（n）** | **114** | **100%** | **100%** |

【ポジティブ】

| 法律 |
|---|
| 生活再建に欠かせないのが、法律（公的な支援）と思います。<br>知識の備えとして心得たいと思います。 |
| 災害時における救済制度が多種あるという事を我々も知らなければならないことを理解できた。 |
| 被災者の困りごとは多様であり、対応の仕方がそれぞれあるため、法的にどう対応すれば良いか、専門家との協力が大切と感じた。 |
| 具体的事例から、法律に関して知っておくことの大切さ、それを伝えることの大切さを考えた。 |
| 法律によるアドバイスが勉強になった。 |
| なじみのない弁護士目線からの被災者支援は今後役立つと思う。 |
| 弁護士さんの職種としての役割が理解できた。住民（被災者）にとって、本当に心強い職種だと思う。 |
| 生の声と法律を結びつけていて、なかなか聴けない大切な情報を知れた。<br>まだまだ自分もこれからだなと感じ、勉強したいと思った。 |

| |
|---|
| 災害復興学という単語や、「罹災証明書」等で説明をして住民の不安を消してあげることが出来ることを学べた。 |
| 災害と法律との関係については、知識が少なかったが、災害にこそ、法律の重要性を再確認した。 |
| 被災者の暮らしを守るための法律から見た説明は目新しいものであり、かつ被災者や支援者にとって大変重要な知識である |
| 「自然災害債務整理ガイドラインに」ついても勉強しておきたいと思います。 |
| 自分の知らない法を知ることができた。 |
| 災害復興法学を提案された先生はすばらしいと思う。 |
| 災害復興法学をもう少し学びたいと思いました。災害の知識を学ぶきっかけとして良い講演だったと思います。 |
| 知識の備え |
| 知識の備えの重要性を理解することができた。 |
| 知識の備えの防災教育を勉強したくなる話しでした。 |
| 生活再建に向けて事前に備えとして知っておくべき知識があるということを知りました。 |
| 被災者に寄り添い被災者の生きる道を持つ知識を使い実行している事がよく分かった。今後は全国へ広めて欲しい。 |
| 一番興味があった、災害が起こった際の動き方や知識等のお話で勉強になりましたが、時間の関係で最後の方がゆっくり聞けなかったのは残念でした。 |
| 防災教育の大事さ、知識のある、なしで違う。必要な知識を備えておくよう。 |
| なかなか聞けない知識を得た。今後も深めたい。 |
| 事前の防災に関する知識が必要であるのに、不足していることを実感できた。 |
| 今、関心のある分野、知識の提供は重要な課題。知らない人は知らない。 |
| 被災者の困りごとに対して、いかに要望に応えていくか。<br>知識があれば、少しでも問題解決の力になれることがわかった。 |
| 知らない事で助けてもらえない事がないように三者が特に知っておいて欲しい。 |
| その他 |
| 命が助かった後は、生活の再建に直面する。非常に重要な分野のお話で参考になった。 |
| 資料が充実していた。持ち帰り、家でじっくり読んでみたい。 |
| 話が分かりやすく、具体的でよかった。 |
| 防災に関しては長年業務の関係でもろもろ学んできたが、それでもわからない活動や支援があることを改めて知ることができただけではなく、講演された岡本先生の志に共感したため。 |
| 様々な講師の活動について知ることが出来て良かったです。 |
| 被災者の基本を学んだように思う。 |
| 会場への問いかけを行い、聞くだけの講演にしていなかったことが良かった。 |
| 住民との寄り添い方がよく分ったけど、駈け足強め。 |

| |
|---|
| 被災者のみなさんの実際の声をお見せいただき、具体的に考えることができました。新たな知識を得ることができました。専門家のみなさんのお力の重要性を改めて考えさせられました。 |
| 大規模災害時に生活再建のための情報を届けることの難しさを再認識した。 |
| ネットワークづくりが大切であることを知った。もう少し時間が欲しかった。 |
| 岡本先生の話はよかったです。 |
| 問題意識の方向性を再確認する機会となり、また、講演者（岡本先生）の著書をより良く理解するきっかけとなったから。 |
| もっと広く皆さんにお知らせしていく必要があると思った。 |
| 非常にわかりやすい。一番大事な事。 |

【ネガティブ】

| |
|---|
| 時間がなく防災教育についての部分が短かった。 |
| 時間が短い |
| 少し時間が短く、内容が早足だった。 |
| 残念、良い内容のお話だったので、もっと聞きたかったのですが、時間が足りなかったです。 |
| 話が早くてついて行きにくかった。 |
| こちらも早口、スピード早すぎ。でも、情報視点は大切。 |
| 時間的に短く、思う事を十分話ができなかったのでは。ゆっくり聞きたい。 |
| もう少し長く講演を聞きたかったため。 |
| 少し、抽象的？時間が短かった。 |
| 内容は良かったが、タイトルや説明にある用語や概念が初めて接するもので、イメージがつかなかった。 |
| 情報が多すぎて理解が出来にくかった。<br>罹災証明…発行する行政はその重要度を理解し、備えられているのか…多くの不安も生まれた。 |
| 伝えたい事がよくわからない。 |
| 自分に関係ない話。 |

③セッション２

| ①-②-③-④-⑤【⑤段階（⑤＝最高評価）】 | 人数 | 割合 | |
|---|---|---|---|
| 回答⑤ | 35 | 31% | 70% |
| 回答④ | 45 | 39% | |
| 回答③ | 18 | 16% | 16% |
| 回答② | 7 | 6% | 7% |
| 回答① | 1 | 1% | |
| 無回答 | 8 | 7% | 7% |
| **総計（n）** | **114** | **100%** | **100%** |

【ポジティブ】

| 連携 |
|---|
| 平時の関係構築が有事の機動力につながった事が理解できた。<br>三者のネットワークが重要だが、一般の人への情報発信方法を検討してほしい。 |
| 役割分担が機能するためにも、情報共有の重要性（顔の見える）を再認識した。 |
| 民間・行政・ボランティアの三者連携が西日本豪雨の際にもなされていたことを知ることができたため。 |
| 皆さん、ごくろうさまでした。連携は大切。これからはまず動くことが必要ですね。平時からの関係作りが大切と感じました。 |
| 中間支援組織と外部との窓口を平時から整えておく必要性について発表者の生の声が聞けたのでよかったと思います。 |
| 防災とボランティアの協力体制を作っていくことの大切さを改めて思う。 |
| 地元 NPO |
| 各団体の力強さを感じました。各団体が何をしているのか、緊急時に何ができるのか、平時に話し合い共有したいと思いました。 |
| 改めて、地元愛媛での昨年の災害活動の活動を学ぶことが出来ました。 |
| NPO 法人ボランティアの一つ一つの役割がよく分った。 |
| いろいろな団体の活動を知れて良かった。 |
| 災害の当事者の方々の報告は良かったと思います。 |
| 事例や取組が聞けてよかった。 |
| 各団体の活動内容が聞けたこと。 |
| 多種多様な形で、夫々の立場で活動されていることが知れた。 |
| 各 NPO の事例をしっかり生で拝聴できてよかった。 |
| 地元での具体的な活動が知れた。 |
| 強み（専門性）を活かした実例や今後の展開が知れた。 |
| 地元の力はすごいです。 |
| 県内の動きを知ることができた。 |

| |
|---|
| 県内被災地において種々なボランティア活動をされている NPO 法人の話が聞けて大変参考になった。参加者の意見を聞いていただき、企業の力を活用してもらいたいとの貴重な意見も聞けた。 |
| NPO の活動がすばらしい。 |
| 普段活動していて、このような話を聴いていたので、そこまで感動がなかった。ただ、活動自体は非常に参考にでき、とてもためになりました。 |
| 現地での活動、現場に行かないとわからない。現場での話を聞くことは重要。 |
| 団体の熱い支援者への心意気が伝わった。 |
| 知っている。一緒に活動してきたメンバーだから。 |
| 香川県も愛媛県と同じく、災害が少ない地域ですので、地元の方々含め、愛媛県での取り組み方は参考になります。一つ一つをもっとじっくり聞きたかったです。 |
| 具体的な事例でしたので分かりやすかったです。 |
| 多くの人、団体の活動も知ることができた。 |
| 各発表者の実際の活動に基づくお話で、分かりやすく災害ボランティアについてイメージしやすかった。 |
| 豪雨災害の実態、振り返りが、短時間であるが、より理解を深められました。 |
| ７月豪雨災害時における支援者の活動内容がよくわかった。 |
| 発災後すぐに行動させられた方々に拍手を送ります。 |
| その他 |
| 身近な内容で分かりやすかった。 |
| もっと知りたい。自分にもできることのヒントにしたかったです。時間が短くて残念です。<br>この場に女性の方がいらっしゃるのも嬉しい事だと思います。 |
| 一般の人が自主的な活動により、人助けを行うことのリアルな情報が得られた。 |
| 自分達に何が出来るか、それぞれの立場の必要性を見極め協力に参加。 |
| 壇上からも会場からも良い意見があり、大変参考になった。 |
| 発災後の多様な現場における実情を知るための一助となったため。 |

【ネガティブ】

| |
|---|
| １人あたりの発表が短かく、少し理解できなかった。<br>もう少し具体例を聞きたかった。 |
| 少し報告の時間が短く、伝わりにくい部分があったように感じています。 |
| それぞれの持ち時間が短く、伝えたい事がもっとあったのでは？ |
| 報告等の時間がもう少しあればよかった。 |
| 時間が１団体に対してもう少しあるとわかりやすかった。 |

④連携・協働ネットワーキング団体間マッチング

| ①-②-③-④-⑤【⑤段階（⑤＝最高評価）】 | 人数 | 割合 | |
|---|---|---|---|
| 回答⑤ | 14 | 12% | 23% |
| 回答④ | 12 | 11% | |
| 回答③ | 12 | 11% | 11% |
| 回答② | 3 | 3% | 4% |
| 回答① | 1 | 1% | |
| 無回答 | 72 | 63% | 63% |
| **総計（n）** | **114** | **100%** | **100%** |

【ポジティブ】

| |
|---|
| 分かりやすい内容であった。 |
| 各団体の活動内容が聞けたこと。 |
| 各団体の支援の内容が分かって良かった。 |
| 発災後の多様な現場における実情を知るための一助となったため。 |
| 顔の見えるつながりがお互いの協力関係の基礎になる。信頼が築ける第一歩となる。 |

【ネガティブ】

| |
|---|
| 団体が多すぎた。 |
| 幸いにして災害の経験がないので、理解出来ないこともあった。 |

III. 回答（２）運営について

①イベント全体の時間帯は適切でしたか？

| 短い①-②-③-④-⑤長い | 人数 | 割合 | |
|---|---|---|---|
| 回答① | 5 | 4% | 14% |
| 回答② | 11 | 10% | |
| 回答③ | 63 | 55% | 55% |
| 回答④ | 26 | 23% | 27% |
| 回答⑤ | 5 | 4% | |
| 無回答 | 4 | 4% | 4% |
| **総計（n）** | **114** | **100%** | **100%** |

②各プログラムの時間は適切でしたか？

| 短い①-②-③-④-⑤長い | 人数 | 割合 | |
|---|---|---|---|
| 回答① | 10 | 9% | 33% |
| 回答② | 28 | 25% | |
| 回答③ | 55 | 48% | 48% |
| 回答④ | 17 | 15% | 15% |
| 回答⑤ | 0 | 0% | |
| 無回答 | 4 | 4% | 4% |
| **総計（n）** | **114** | **100%** | **100%** |

③情報量は適切でしたか？

| 少ない①-②-③-④-⑤多い | 人数 | 割合 | |
|---|---|---|---|
| 回答① | 1 | 1% | 8% |
| 回答② | 8 | 7% | |
| 回答③ | 61 | 54% | 54% |
| 回答④ | 32 | 28% | 35% |
| 回答⑤ | 8 | 7% | |
| 無回答 | 4 | 4% | 4% |
| **総計（n）** | **114** | **100%** | **100%** |

④プログラムとして追加してほしい内容がありましたら、ご記入ください。（自由記述）

| |
|---|
| 高齢者、介護者等に関する防災時支援<br>地元大学との連携、役割、中長期的な係わり。 |
| 特に自助の行動(大雨等の事象を皆に知ってもらわないとあまり本気にならない)<br>今迄に大きな災害が発生していない |
| 発災後の時間経過に応じたボランティア需要を示しながらイベントの進行を構成することも一案かと存じます。 |
| 企業として何ができるか。 |
| 士業連携、企業との連携。 |
| 実際のそれぞれの立場での体験の声、「こうだったら良いよ」という話を含めた被災しないとわからない具体的な話。 |
| 松山市や今治、東予地区など同県民でも教育の機会をもっと企画してほしい。 |
| 南海地震が発生した場合の県内の最大被災が予想される愛南町においては、後背地の人口が少なく、県都松山市から遠隔であることから日帰りボランティアは困難。滞在型が可能な下地をしておく等、全国の被災地で最もボランティアの支援が必要なケースとなるのでこれをシュミレーションした企画をお願いしたい。 |
| 松山市宮西などアパートマンション等つながりがなく息苦しいので、価値的・価値創造ではないのでは？参加者が輪になって話し合う機会などがないので価値的・価値創造だろうか？参加者全員の話し合いなどが必要で価値的・価値創造ではないだろうか？ |
| 岡本先生の話をもっと聞きたかったです。 |
| 岡本正先生の話をもっと時間をとって聞きたかった。残念。 |
| 行政と意見交換の時間を増やしてほしい。 |
| 事例発表の時間が短い（５分以上は必要） |
| 休憩は入れたほうがよい。パネルディスカッションの登壇者の人数が多かったのかもしれない。 |
| 難しい、早い、理解困難、事例がつながらない。資料が少ない。 |

【参考１】回答者属性

（1）所属分類

| 所属分類 | 回答数 | 割合 | 参加者 | 回収率 |
|---|---|---|---|---|
| 公務員 | 37 | 32% | 39 | 95% |
| 社会福祉協議会 | 11 | 10% | 22 | 50% |
| 自主防災組織（自治会等含む） | 10 | 9% | 14 | 71% |
| NPO・ボランティア団体 | 8 | 7% | 32 | 25% |
| 民間企業 | 8 | 7% | 15 | 53% |
| 防災士会 | 8 | 7% | 11 | 73% |
| 学生 | 8 | 7% | 8 | 100% |
| 福祉・医療関係 | 7 | 6% | 13 | 54% |
| 教育・研究関係（大学・研究機関等） | 4 | 4% | 14 | 29% |
| その他 | 6 | 5% | 33 | 18% |
| 無回答 | 7 | 6% | - | - |
| **総計（n）** | **114** | **100%** | **201** | **57%** |

注）その他の詳細…団体職員（2）、自営業（2）、個人（2）

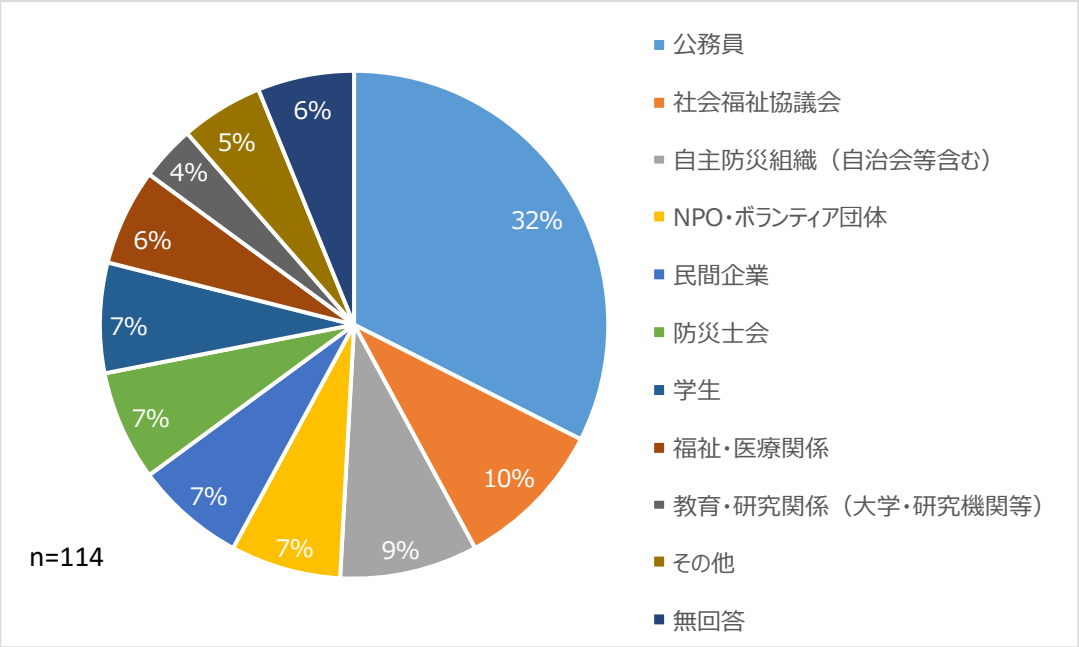



図５　所属分類

(2) 性別

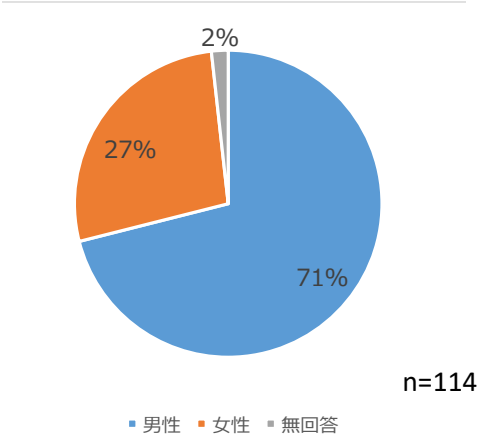



図３　性別

| 性別 | 回答数 | 割合 |
|---|---|---|
| 男性 | 81 | 71% |
| 女性 | 31 | 27% |
| 無回答 | 2 | 2% |
| **総計（n）** | **114** | **100%** |

(3) 年齢（年代）

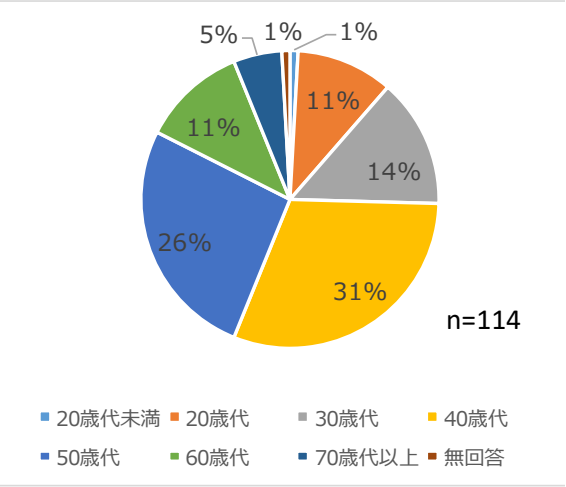
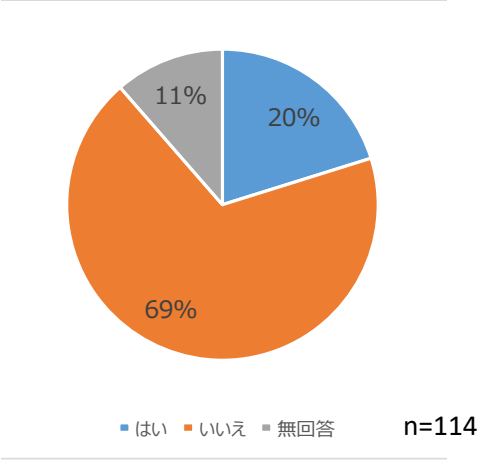



図４　年齢（年代）

| 年代 | 回答数 | 割合 |
|---|---|---|
| 20 歳代未満 | 1 | 1% |
| 20 歳代 | 12 | 11% |
| 30 歳代 | 16 | 14% |
| 40 歳代 | 35 | 31% |
| 50 歳代 | 30 | 26% |
| 60 歳代 | 13 | 11% |
| 70 歳代以上 | 6 | 5% |
| 無回答 | 1 | 1% |
| **総計（n）** | **114** | **100%** |

(4) 分野（防災専門か）




| 回答 | 回答数 | 割合 |
|---|---|---|
| はい | 23 | 20% |
| いいえ | 78 | 69% |
| 無回答 | 13 | 11% |
| **総計（n）** | **114** | **100%** |

図５　分野（防災専門か）

(5) 居住地

| 都道府県 | 市町村 | 回答数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 愛媛県 | 松山市(34)、八幡浜市(12)、宇和島市(11)、西予市(6)、松前町(5)、今治市(4)、西条市(4)、砥部町(4)、東温市(4)、伊予市(3)、四国中央市(3)、久万高原町(2)、大洲市(2)、宇和町(1)、新居浜市(1)、大州市(1)、無回答(5) | 102 | 89% |
| 岡山県 | 総社市 | 1 | 1% |
| 宮崎県 | 宮崎市 | 1 | 1% |
| 香川県 | 高松市 | 1 | 1% |
| 鹿児島県 | 鹿児島市 | 1 | 1% |
| 神奈川県 | 横浜市 | 1 | 1% |
| 東京都 | 墨田区(1)、無回答(1) | 2 | 2% |
| 無回答 | | 5 | 4% |
| **総計（n）** | | **114** | **100%** |

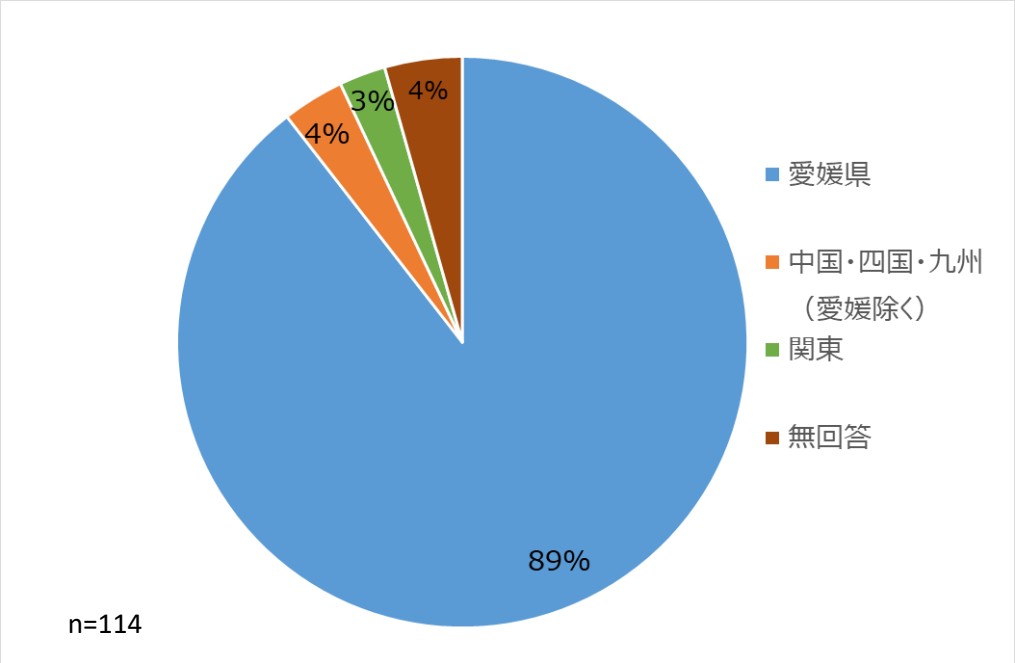



図６　都道府県別居住地

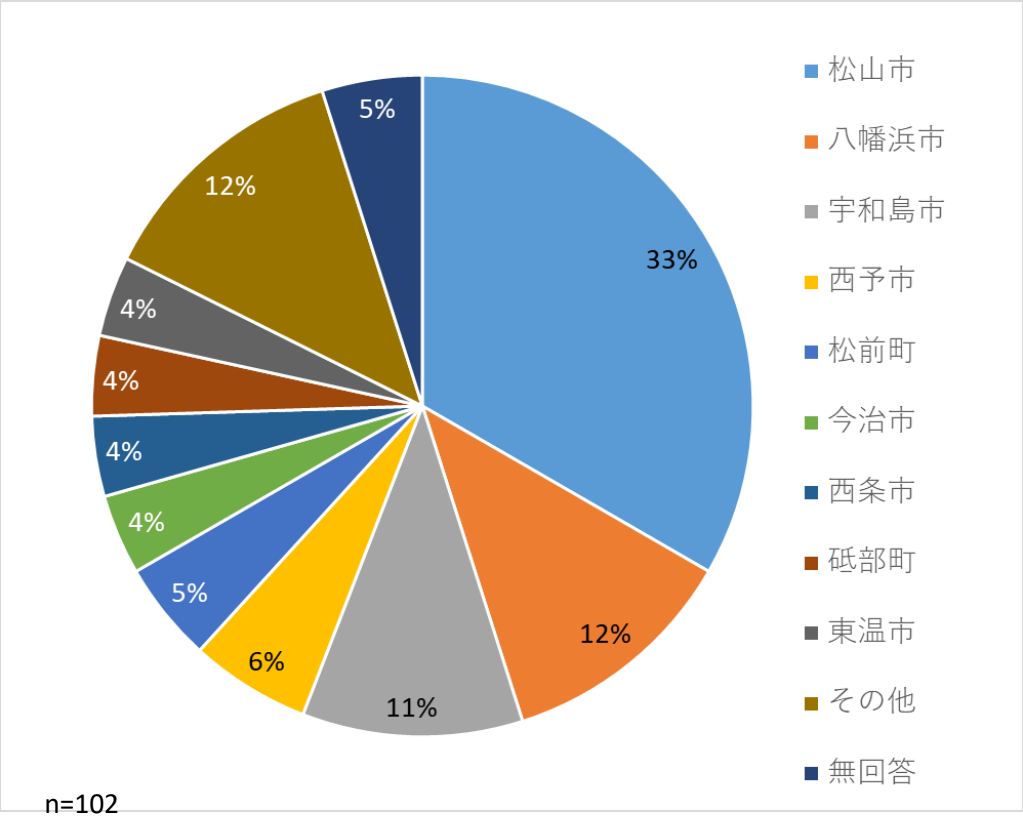



図７　愛媛県　市町村別居住地

(6)　参加理由（複数回答）

| 選択肢 | 回答数 | 割合 |
|---|---|---|
| 仕事に関連がある | 58 | 37% |
| 防災ボランティアに関心がある | 55 | 35% |
| 被災者支援のための連携に関心がある | 30 | 19% |
| その他 | 5 | 3% |
| 無回答 | 8 | 5% |
| **総計（n）** | **156** | **100%** |

注）その他の詳細…勉学のため（２）、防災・自助、発災時の対応（2）、ネットワーキング（1）

(7) イベントを知ったきっかけ（複数回答）

| 選択肢 | 回答数 | 割合 |
|---|---|---|
| チラシ | 50 | 40% |
| 口コミ | 30 | 24% |
| SNS 等 | 17 | 13% |
| ポスター | 9 | 7% |
| web ニュース | 10 | 8% |
| 無回答 | 10 | 8% |
| **総計（n）** | **114** | **100%** |

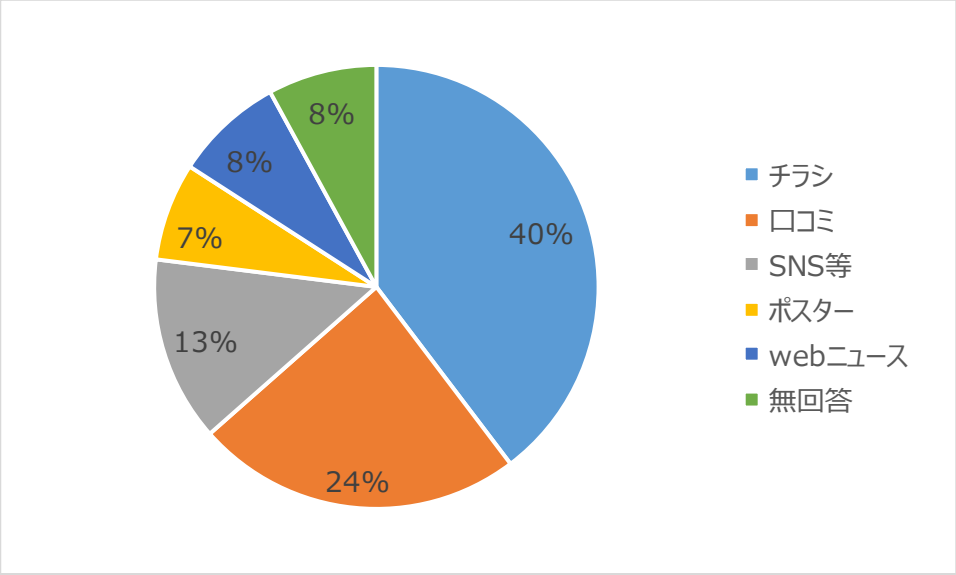



図８　イベントを知ったきっかけ

資料３　参考資料２

平成３１年１月２７日

# 「防災とボランティアのつどいｉｎ愛媛」
# 山本大臣ご挨拶（全文記録）

ただいまご紹介を賜りました防災担当大臣の山本順三でございます。今日、愛媛でこの「防災とボランティアの集い」が開催されますことを大変うれしく思っております。また、中村県知事、宇和島市長、大洲市長、西予市長にもお越しいただき、うれしく思っております。

昨年は全国各地で大きな災害が起こりました。大阪北部地震に始まり、その後の西日本豪雨では大勢の方がお亡くなりになりました。愛媛県も大きな被害が発生しましたが、その被災地に足を運ぶ度に、自然の脅威を改めて思い知らされました。広島や岡山、あるいは岐阜で大きな被害を受けた土地土地に足を運びますと、その土地土地の地形や地質の状況により災害の質が違うのだと認識しました。同じ雨が降っても災害の質が違うということは、その後の復旧復興のやり方も違うことになると改めて感じました。先ほどもボランティアの方々にお話を伺いましたが、ボランティアの対応の仕方もその地域の特性により変わるのだと改めて感じた次第でございます。

また、台風の中には逆走する台風もあります。地球温暖化の影響であろうと思いますが、台風の規模というものも年々大きくなっており、また、日本に押し寄せる数も増えている、そういう状況にもなってきました。

北海道胆振東部地震の被災地にも行ってみましたが、話を聞くと絶対強固だと思われていた場所が被害を受けています。いろいろと調べてみると、岩盤があってその上に火山灰が積もって押し固まった地域ということであります。そのような地域が地震で下からぐっと突き上げられると一挙にその火山灰で構成された土地が崩れだしてしまうということです。雨も降っていないのに土砂災害が起こってしまうのを見るにつけ、自然の恐ろしさを感じる次第であります。

今年も、1 月 3 日に熊本で震度 6 の地震が起こりました。我々は緊急参集チームに入っておりますから、震度５強以上の地震が起こると即座に総理官邸の地下に参集をしなければならないということで、お正月から集まっておりました。また、私は昨日からこちらにおりましたが、熊本で震度 5 弱の、また追いうちをかけるように東北の方でも震度 4 の大きな地震がありました。我々は災害と共存していく覚悟を持たなければなりません。その中で減災するには、防災するにはどうすればいいのか。今起こっている災害を参考にしながら、次の防災に向けて一歩一歩前進をしていかなければなりません。その中でボランティアの皆さんのお力もいただかなければならないと思っているところであります。

この会は今年で 24 回目ということをお伺いいたしました。阪神・淡路大震災の時には大勢のボランティアが助けに入っていただきました。その時に、「ボランティア元年」

ということで、1 月 17 日が「防災とボランティアの日」と定められました。それ以降、ボランティア団体の皆様の様々な交流が続き、大きな成果を挙げていることを大変うれしく思っております。私も愛媛県であちらこちらへまいりましたが、本当に大勢のボランティアの皆様があの暑さの中で一生懸命手伝っている姿は本当に感動的でございました。子どもからお年寄りまで色々な年代の皆様が自分なりの気持ちを込めて活動していただいているということに心から敬服しますし、本当にありがたいと感謝もしたところでございます。

これから、ボランティアの皆様、NPO の皆様が連携して枠組みを作っていくということが極めて重要になってくると思います。ボランティアの皆様が受付に来られても、それを適正に振り分けるということが難しい場面もございます。そういった受入れの仕方というものを皆で相談して、そしてどう対応していくかということを、災害の起こらない普段から情報を共有していくということも極めて大切だと思っております。全国災害ボランティア支援団体ネットワーク、これは通称 JVOAD といいますが、それに加えて、社会福祉協議会、共同募金会など関係者の方々のご尽力に、我々は大きく期待するとともに感謝する次第であります。

実は今回、土砂災害や水害等を受けて、内閣府で中央防災会議の下に 2 つのワーキンググループを立ち上げ、その報告書がつい先般まとまったところでございます。1 つは水害土砂災害、もう 1 つは南海トラフでございますが、その中で東京大学の片田先生から強いご主張がございました。それは、日本の国民の皆様は非常に防災意識が高いが、それでもまだまだだと。住民の皆様が自分の命は自分で守るという自助に加えて公助として、我々がどれだけの対応ができるか、しっかりと死に物狂いで対応していかなければなりません。しかし、それだけでは足らざるところがあります。では、どうするのか。自助、公助に加えて共助、それは地域の皆様が支えあっていくことでもありますし、ボランティアの皆様との共助ということにも相成ろうかということであります。

今日お越しの大洲市長さんのところに三善地区というところがございますが、ここでは、先般の大水害の時にも一人の死者も出さずに避難することが出来ました。避難カードというものを作って、自分の名前、血液型、どういうところにお年寄りがお一人で住んでいるか、様々な情報を首からかけて逃げるわけです。避難所へ逃げても危なくなれば次の避難所に逃げろと。それを地域ぐるみで、自治会でありますけれども、普段の活動から住民同士の交流をしっかりと重ねて、それが災害の時に大きな効果が出ると実証された場所でございました。そしてそのような共助の中で防災士、防災リーダーが非常に重要になってきますし、そして事後にはボランティアの皆様が非常に重要になってくると思います。防災意識がさらに高まっていくような社会を作らなければならないと思っております。

大変長くなりましたが、本日お集まりの皆様、全国規模で平時から顔の見える関係を築き、その多くの知見をこの会を通じて持ち帰ることができるように、この会の盛会をお祈り申し上げて、私からの挨拶に代えさせていただきます。どうぞ有意義な会にしていただきますよう、ご協力よろしくお願い申し上げます。

平成３１年１月２７日

# 「防災とボランティアのつどいｉｎ愛媛」
# 愛媛県 中村時広知事ご挨拶（全文記録）

ただいまご紹介をいただきました愛媛県知事の中村と申します。今日の出席のために県外からもボランティア、関係者の皆さんが大勢お越しいただいております。まず、愛媛県を代表いたしまして、ご来県を心から歓迎させていただきたいと思います。ようこそ愛媛県へお越しいただきました。またその機会を作ることになりましたのは、地元出身の山本議員が防災担当大臣になられたということもあると思います。また、昨年７月に発生した西日本豪雨災害、愛媛県でも甚大な被害が発生いたしましたので、その被災地でという関係者の声もあったと思います。有意義な会を開催していただきましたことを地元としても重ねてお礼申し上げます。

昨年は豪雨災害、私も今の仕事の前は松山市の市長の仕事をさせていただいておりましたが、平成１５年に発生した芸予地震の時には被災地として陣頭指揮にたたせていただきました。もともと愛媛県は大きな被害が少なかったところではあるのですけれども、その時だけは久方ぶりの大きな被害がありました。その後は各地で発生する被災地をどう支援すれば良いかということを積み重ねた十数年でありましたけれども、昨年は当事者としてその災害に向き合うかたちになりました。

愛媛県内で一体どれくらいの規模の被害になったかということを申し上げますと、残念ながら尊い命を失われた方が３１名。そして、道路や河川、橋梁の被害額が４２０億円。中小企業の工場あるいは商店街の被害額が４９０億円。農業を中心とする一次産業の被害額が６５０億円。たった３日の集中的な豪雨によって一気に１５００億円の資産が失われました。こうしたような状況に対応するため、今、精一杯の取り組みを進めているところでございます。

今日お越しの三市は特に被害が大きかったところの市長さんでありますけれども、それぞれ特色が違います。例えば、宇和島市は土砂災害による農業地帯の被害が大きかったところです。大洲市は中心部を流れる肱川の河川の氾濫によって多くの家屋が水没いたしました。西予市はその両方、町によっては河川の氾濫による被害、あるいは土砂災害による被害ということで地域ごとに災害の様子が異なるのですけれども、しかしながら、どうやって対応を進めていくかについては、やはり行政だけでは力不足の面も否めないということであります。

かつて陣頭指揮をとった時、そして今回、本当に多くの皆さんが何とかしてあげたいという気持ちを持って見つめてくださっておりますが、その気持ちをどう表して良いのかわからないところがあると思います。物資にいたしましても当初は水、あるいは毛布が必要であったことは言うまでもないけれども、時間の経過につれて必要とされる物資は刻一刻と変

わっています。避難所が開設されますと、水や生活用品、日常生活関連物資、さらに長引いてまいりますと栄養の面から食事の問題、そしてメンタルのケアと、色々なニーズが刻一刻と変わってまいります。外にいるとこれが分かりませんから、当初段階で色々なものが一気に送られてくる。しかし、そのお気持ちはありがたいのだけれども、マッチングができないとただ倉庫に山積みされていってしまうという、そういう姿もみてきた経緯がございます。地元としては、できるだけ地域ごとの被災状況の違いを的確に把握して何が必要なのかというのをキャッチし、それを正確にできるだけ速やかにわかりやすく外に向かって情報発信できるかどうか、それが大事なのだということをつくづく感じています。

また、大きな被害が起きた時には、行政や消防団ではとても手がまわりません。同時発生するわけでありますから、地域の防災力が鍵をにぎるものと考えてまいりました。愛媛県で特に力を入れてきたのが、防災士の育成です。防災士の資格は、個人の資格でありますけれども、ここに公費を入れることができないかということを１０年くらい前から議論いたしました。単に個人の資格に公費を入れるというのはどうなのか、これは最なご意見であります。そこで、愛媛県では、自主防災組織の推薦を条件として、防災士の資格をとろうとされる方については、これは個人の資格ではなくて地域の資格、公人としての資格であるという位置付けにしまして、この条件を満たした防災士取得希望者に対して市長と協同し、全額公費負担という制度を設けております。１０年の月日のなかで、現在愛媛県内では防災士の資格を持った方が 12,000 人誕生しています。４７都道府県でいいますと、１番多いのが東京都 13,000 人、２番目が 12,000 人の愛媛県です。２年後には東京都を抜いて多分愛媛県が一位になるだろうと思います。数が全てではありませんけれども、数も重要であります。その誕生した防災士をさらにネットワーク化して、情報交換やスキルアップを続けていくことによって、地域の防災力を高めていく、これを愛媛県にとっての防災の基本方針として実現させていただいているところであります。こういったなかで、今回防災士のみなさんは本当に大きな力を発揮していました。これは地域のボランティアであります。

そして、行政だけでは手の届かない、気が付かないところを民間のボランティアの方々にずいぶん助けていただきました。県外からボランティアに来られた場合にそれぞれ得意分野があると思います。土砂の撤去といったことをやりたいという方もいれば避難所でケアをやりたいという方もいる。それぞれの持ち味というのを活かしていただくような受け皿づくり、先程山本大臣もおっしゃっていましたけれども、ボランティアの方がいらしたときの地域の受け皿づくりと、そしてこのボランティアの方々を誘導する、これが極めて重要であると考えます。

こうした災害を実際経験した立場で、また皆さんのそれぞれの経験からくるご意見等を参考にさせていただきながら、愛媛県全体の防災力のアップに繋げていきたいと思いますので、今日の会は我々にとっても非常に興味深くそして大切な会合になります。ぜひ皆さんのそれぞれの思いを会議で教えていただきますように心からお願いを申し上げる次第でございます。本日の会議がそれぞれの地域の防災力のアップ向上につながることを心からご期待申し上げましてご挨拶とさせていただきます。

## 【セッション２概要】（愛媛セッション）
## 愛媛県における「防災とボランティア」

【パネルディスカションへの大臣コメント】

今日は先般の豪雨災害で実際に活動された４名の皆様から、それぞれの立場の、いわば活動報告をいただきました。各地で色々活動していただいているのだと嬉しく思いました。

西日本豪雨で被災したときに、私は国会議員として被災した地元に足を運んで、今何ができるかという情報を集めて東京に持っていき、必要な施策をいかに早く展開するのかという仕事をしておりました。そうした対応を毎週していた時に、私が常時動いているものですから、家内もその気になり、これはなんとかしなければということになりました。そして、知り合いの方々に色々差し入れにいく中で、今これが必要である、例えば保育園に行ったらカスタネットが必要とか、色鉛筆も必要といったような、現場で災害のタイミングに合った必要なものがでてくる。それも男性の目ではなかなか届きにくいようなことも情報として入ってきて、それを東京へ次々に集めて送るということもしておりました。要は、やはり役所、つまり我々の対応と、現地で住民の皆様方と密着して対策を講じていただいている皆様方とが連携をしなければならない。そのための仕組みが、情報共有会議であり、それが各地で立ち上がっていくということは、本当に大事だと思いました。

ボランティアの方は善意の塊でございますが、その連携プレイが取れないため、今は本当はこれよりもあれが欲しいのだという被災者のニーズに対応できない場合がございました。東日本大震災のときも最初は色々な生活必需品への要望があったのですが、ある時期からは生鮮食料品、果物、みかんが必要などという声が次々に私どもに届くようになってまいりました。そうしたことを一つ一つクリアできるような組織というものが非常に大事だと思いました。障害者の立場で障害者の皆様方のために例えば避難所はどうあるべきなのか考えていただくということは、我々に与えられた使命です。あるいはみかん、全国からきているみかん畑を知らない人は驚くと思います。大変な急傾斜地でみかんを作っているのです。そのようなところでお年寄りがみかんを作っているのですが、そこへボランティアを呼んでも、とても動けない、働けないという場面もありますが、それをどう乗り越えていくか。そして、せっかくなったみかんを腐らさない、もう一つは災害の結果として農業を辞める人を一人もつくらない、このような強い思いを持って今、首長さんが一生懸命に動いていらっしゃいます。そういうことも含めた総合的な情報共有会議、本当に大事だと思っておりますので、どうぞ続けていただくようよろしくお願い申し上げます。

平成３１年１月２７日

# 「防災とボランティアのつどいｉｎ愛媛」
# 米澤審議官閉会ご挨拶（全文記録）

内閣府官房審議官の米澤でございます。本日は多数の方にお集まりをいただきまして誠にありがとうございました。本日の第 1 セッションでは、ボランティアが法律に登場したのが平成 7 年、それから 24 年経ちまして今回の情報共有の仕組が出来上がった歴史を皆様に紐解いていただきました。幾多の災害を経て、様々な経験と知識を蓄えて、情報共有会議やコア会議という仕組が出来て、今のボランティアの仕組が出来てきたということです。

岡本先生の基調講演では、非常に多くの法律相談の積み重ねの中から被災者の方々が何に困っているのかを汲み上げていただいて、それを解決するという取組を通じて、法律を通じて被災者の方を助ける被災者支援の制度が出来ているというお話をいただきました。

また第 2 セッションにつきましては、必ずしも災害に慣れていない愛媛県において、昨年の甚大な豪雨災害で、障がい者から生業支援に至るまで早い段階から非常に幅広い方々が関わり、様々な支援が行われたということでした。そうした中で言えますことは、普段から幅広い活動が出来るように、ボランティアに関わる皆様が平時から付き合っていく、顔の見える関係を作っていくことが重要であるということであろうと思います。

今日は多くの方々がお集まりになり、この後 30 分ほどお時間もあるようでございますので、是非この機会に今日ご登壇されました方々を始めとしまして、皆様方と交流をしていただいて、少しでも顔の見える関係を作っていただきたいと思います。

私は内閣府で 1 年半ほどこの仕事をさせてもらっております。以前、JVOAD の栗田さんにお話をいただいて非常に印象に残ったことがございます。それは役所で、「ボランティアを活用する」と書いてある文書を見て、栗田さんが「ボランティアは役所から活用されるものではない。自分たちでやっているんだ。」と言われたのが大変心に沁みました。

今日お話を伺っていても、被災者に一番近い地域のボランティアの方々が主であることは間違いないと思います。それに全国の様々なノウハウを持った方がどうやって協力できるのか、それをどうやって役所が支えられるのか、こういう視点でこの問題を考えていかなければならないと改めて実感した次第です。

本日は大変長時間にわたりご協力いただきましてありがとうございました。今後とも引き続きよろしくお願い申し上げます。